

令和八年度

滝川第一中学校 入学考查 問題

A
1日程

国語

(五十分・百五十点)

注意事項

- 問題は1ページから15ページまであります。
- 解答は、すべて解答用紙の枠内に記入しなさい。
- 「開始」の合図があるまで問題用紙を開いてはいけません。
- 受験番号と氏名を、解答用紙と問題冊子の表紙に正しく記入しなさい。
- 「終了」の合図で筆記用具を置き、監督の先生の指示に従いなさい。

受験番号						氏名

一 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。（指定された字数には、句読点その他の符号もそれぞれ一字としてふくみます。また、書きぬく部分にふりがながある場合、これを省略してもかまいません。）

スーパー やコンビニで飲み物を選ぶ時、「どれにしようか」と立ち止まつた経験はないだろうか。最終的に「まあこれでいいか」と妥協^{だきょう}したことも、一度や二度ではないかも知れない。

これは飲料に限つた話ではない。菓子^{かし}、カップ麺^{めん}、コスメ、家電製品……私たちの生活のあらゆる場面で、年々^{①せんたくし}選択肢^{ばん}は増えている。

しかし、これらの膨大^{ぼうだい}な選択肢は、必ずしも生活者のために用意されたわけではない。

まずはコンビニを題材に、選択肢が増え続けるメカニズムについて考えてみよう。

② 言わざもがな、コンビニは選択肢の宝庫だ。
何を買うにしても複数の選択肢がある。しかしその選択肢の中

には、③差別性が低い商品も含まれている。本書冒頭^{ぼうとう}の若者が言う「どれもある程度おいしいから、どれでもいい」というカテゴリーだ。

この状況^{じょうきょう}は、マーケティング用語でコモディティ化と呼ぶ。「共通の」や「一般的な」、「ありふれた」を意味する common から派生した言葉で、製品やサービスが差別化できなくなつている状況のことを指す。

今、コンビニのお茶はまさにコモディティ化している。言いかえれば、日本のお茶メーカーたちは、一般人が求める味のレベルをどうの昔にクリアしてしまつたということだ。コンビニのお茶に「もつとおいしくなつてほしい」と切実に願つて いる一般生活者がどれだけいるだろうか。その大半は既に不満を持つていなはずだ。という謎^{なぞ}の宣伝文句だ。

生活者側には不満がないのに、企業側だけが「もつとおいしくしなきや」と、膨大な開発コストをかけて商品を改良する努力を続けている。その結果生まれるのが「＊＊成分＊倍（当社比）」

その「＊＊成分」とはどんな効果があるのか？ 「＊倍（当社

比）」はどれほどすごいのか？ 私たちは④まるで社内用語のような、よくわからない情報を判断基準として渡されるが、正直よくわからないので「どれでもいいや」で決断している。

（A）これはお茶だけに限ったことではない。

企業側だけが細かな改良に注力し、生活者は大して違ひを感じていないズレはあらゆるジャンルで発生している。

ではなぜ私たちは満足しているはずの商品の「新しいバリエーション」に次々と出会うのだろう？

※電通に勤めていた頃の話だ。とある大手製菓メーカーから「重要な新商品の相談がある」と呼ばれて、話を聞きに行つた。すると内容は新しい味にリニューアルしたガムの宣伝に関する相談だつた。新しい味に関する膨大な※マーケティング資料を見せられたが、内心「味のリニューアル、本当に誰かが求めています？」と思わずにはいられなかつた。

（B）、その新商品は発売後に少しだけ売れて、しばらく

するとコンビニの棚から消えた。結局残つたのは、定番の味のガムだけだつた。

その後、新興企業のガムが異なるアプローチで大ヒットした。形状を変えたのだ。これまでガムといえば細長い長方形が定番だつたが、平たいタブレット状にして「ポケットに入りやすい」と、これまでのガムの不満を解消するメリットを※訴求した。

（C）、生活者が本当に欲しかつたのは「新しい味」ではなく「新しい形」だつた。

多くの企業がこうした生活者の本当のニーズに気づけない。正確に言うと、気づく暇がない。

なぜなら新商品をどんどん※リリースしないといけないからだ。期間内にできる範囲での「新しくなつた感じ」だけを⑤落とし所に、商品を改良して、新商品としてリリースする。こうして生活者が求めていないにもかかわらず、また新しい選択肢が世の中に増えていくのだ。

しかし、実は企業も、そんな短期サイクルで新発売を繰り返したいと思つていはない。何らかの製品開発に携わる人は、こう思うかもしれない。「私たちだつて本当は、もつとじっくり生活者のニーズに向き合いたい。でも現実には新商品の発売スケジュールに追われている」と。

(6) この問題の根は、個々の開発者の意思や能力ではなく、もつと構造的なところにある。

前述の通り、コンビニで買い物をする時、私たちは複数の選択肢がある。

たとえ、それが差別性の低いお茶や水でも、最低でも3社以上の中から1社を選ばされる。正直どれでもいいのに、どれもおいしいのに、なぜそんなに私たちに選択を迫るのか。それは、コンビニの限られた棚を奪い合う企業同士の熾烈な競争が原因だ。

メーカーにとつてコンビニは命綱だ。国内トップのコンビニチェーンであれば全国に2万店舗以上ある。つまりコンビニの「バイヤーに「選ばれた」商品は、全国2万店舗以上に並ぶことにな

る。コンビニの棚に置かれるか、置かれないかでメーカーの売上は激変する。大差ない（それでもいい）カテゴリのアイテムであれば、一度棚に設置されば、3分の1の確率で選んでもらえるといつても過言ではない。

コンビニの普及は、私たちの生活を変えただけでなく、メーカーと小売業の「力関係すらも一変させた」。

今、メーカーの最優先事項は、売場の棚を獲得すること。

逆に言えば、棚から外されること（これを棚落ちと言う）があつてはならない。この熾烈な棚争いに必要なのが、頻繁な「新商品」や「リニューアル」なのだ。

各企業は棚から他社の商品を「どかす」ために新商品を出す。新たな生活者ニーズを捉えた画期的な商品として、コンビニのバイヤーにアピールする。

コンビニの棚の入れ替わりは激しい。生活者がほぼ毎日訪れる存在になったコンビニは、小売りとしての競争力を維持するため「商品の鮮度」を求めている。そのため棚に置かれ続けるには、定期的に「変わった感（鮮度）」をアピールしないといけな

いのだ。

(D) 企業は商品のリニューアルに追われる。「ぶっちゃけ、前のお茶とあまり変わりません」なんて口が裂けても言えない。「正直、生活者は今のお茶で満足しています」なんてもつと言えない。しかし、生活者は今の商品で十分なのだ。

この現象はコンビニだけに限らない。

スーパー・マーケット、百貨店、ドラッグストア、(E) ECサイトに至るまで、あらゆる小売りの場で同様の競争が繰り広げられている。限られた売場を獲得するために、あるいは一度獲得した売場を維持するために、企業は常に「新しさ」や「変わった感」をアピールし続けなければならない。

メーカーは生活者が求めていないものを作りたいわけではない。生活者も無駄な選択に時間を使いたいわけではない。小売業も混乱を招きたいわけではない。

しかし、限られた売場をめぐる競争が、すべての関係者を「選択肢の増加」へと駆り立てているのだ。

(小島雄一郎「『選べない』はなぜ起ころる?」より。)

注

電通：広告に関する業務をおこなう会社のひとつ。

マーケティング資料

：自社の製品やサービスを宣伝するために作成する資料。
訴求：強く訴えること。
リリース：公表。

バイヤー：仕入れる商品を選択する人。

問一 (A)～(E) に入ることばとして適当なものを、次のア～オから選び、記号で答えなさい。(同じものは一度選べません。)

A 案の定 イ さらには ウ こうして
エ つまり オ もちろん

問二 線部①「選択肢は増えている」とありますが、その理由について説明した次の文の【】に入ることばを、【ア】は三字、【イ】は二字で、本文中から書きぬきなさい。

次々と【ア】が【イ】されているから。

問三　——線部②「言わずもがな」を七字の別のことばで言いかえなさい。

問四　——線部③「差別性が低い」と同じ内容を表す四字の表現を、本文中から書きぬきなさい。

問五　——線部④「まるで社内用語のような」とあります。このような言葉が消費者向けの広告に用いられる理由を説明し、た次の文の【】に入ることばを、本文中からそれぞれ三字で書きぬきなさい。

新商品開発が、【ア】ではなく、【イ】の必要によつておこなわれているから。

問六　——線部⑤「落とし所」とありますが、ここでの意味を説明する次の文の【】に入ることばを、本文中から書きぬきなさい。

やむをえず【】した結果

問七　——線部⑥「この問題」がさす内容の説明として最も適当なものを、次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 開発者たちが次々に開発をさせられる状況に不満を持つていて、本当に良い商品を作る意欲をなくしていること。

イ 消費者たちは、自らのニーズを自覚しておらず、新しい製品を開発する人々が方向性を見いだせていないこと。

ウ 消費者たちが、あらゆる製品に不満を感じておらず、ものはや新しい商品を開発する意味がなくなつていてのこと。

エ 開発者たちが次々に新製品を開発しているものの、それらの改良点が、消費者のニーズに合うものでないこと。

オ 開発者たちが、コンビニの利益の拡大を最優先して、自社の利益や消費者のニーズを重視しなくなつたこと。

問八 — 線部⑦「構造的なところ」とあります、メーカーが

かかえる構造的な問題についての説明として、誤つてゐるものを、次のア～オから二つ選び、記号で答えなさい。

ア コンビニの棚に自社製品を置いてもらうためには、絶えず新商品やリニューアルした商品を発売しつづけなければならぬということ。

イ コンビニ各社は、状態の良い新鮮な製品を販売するためには、まだ使用できる商品を廃棄^{はいき}したりメーカーに返品したりすること。

ウ コンビニ各社は、競争力を保つために、目新しい商品を

店に置くことが大切であると考えております。これにこたえる必要があること。

エ コンビニの棚に置かれる新製品は、以前からの物と大きな違いはなくとも、今までの物とは変わったという感じを

出す必要があること。

オ コンビニ業界は、常に消費者のニーズを見つけ出し、メーカーに対して無理なスピードで開発の要求をしているということ。

問九 — 線部⑧「力関係すらも一変させた」とありますが、コンビニの普及が、なぜこうした結果をうんだのですか。

「メーカー」「影響」ということばを使って、四十字以内で説明しなさい。

問十 — 線部⑨「どかす」とありますが、なぜその必要があるのですか。この箇所^{かしょ}よりも後の本文中から、十五字以内で書きぬきなさい。

二 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。（指定された字数には、句読点その他の符号もそれぞれ一字としてふくみます。また、書きぬく部分にふりがながある場合、これを省略してもかまいません。）

主人公の今日子は、長年タクシードライバーの仕事をしていだ。珍しく数日間休みを取り、今ではただ一人の家族である妹と空港で待ち合わせて食事をすることになったが、妹は急用で遅刻すると連絡してきた。今日子は妹と自分のいなり寿司を買い、屋上で暇つぶしすることにした。

あの日はそして、不思議なことに、展望デッキに上がつてみたら、他にひとがいなかつたのだ。①まるで魔法でかき消したようにな、あの夕方の空港の屋上には、今日子以外のひとがいなかつた。空の旅がいまほど普通でなかつた時代、屋上にはいつも飛行機を見ているひとたちがたくさんいたのに。

子どもの頃の今日子は、きょろきょろと辺りを見回し、風が吹ふき②過ぎるだけの、しんとした空港の屋上で、ひとりぼつんと立ち尽くした。

誰もいない広々とした場所というものが、こんなに殺風景で寂しいものなのだと初めて知つた。

あれは秋だつた。今日子は秋風が吹きすぎる、肌寒い空港の展望デッキで、冷えたいなり寿司を食べ、冷たいジュースを飲んだ。いなり寿司もジュースもいつも通りにそれなりに美味しかつたけれど、風の音を聞いているうちに、寂しくなつてきて、今日子は空港の屋上で泣いた。静かに涙を流してすすり泣いた。

（ずっと、泣くのを我慢していたんだ）

今日子が悲しいと泣けば、母が心配する。優しい祖母も困つてしまふだろうし、妹の明日香は狼狽えるだろう。

今日子は、みんなのためにしゃんとして、いつも笑顔で元気でいたかつたのだ。

（でもほんとうは、寂しくて泣きたかつたんだよなあ。いつだつて）

だけど、ぐつと涙を呑み込んで、③こらえていた。

（頑張っているお母さんにも、優しいおばあちゃんにも、可愛い妹にも、そして、お空にいるお父さんにも、わたしにしてあげらることは、なんにもなかつたからね）

あれはたしか、最後にお母さんの飛行機のお見送りをしに屋上に上がったときのこと。あの頃お母さんの仕事が忙しくなり、今日子と明日香も大きくなつて、自然とお母さんはひとりで忙ただしく空港に向かい帰るようになつて、お見送りの習慣も消えてしまつたのだ。

エレベーターは屋上に着いた。途中まで、乗り降りするひとはいたのだけれど、屋上で降りたのは、今日子ひとりだけだった。そして、梅雨時の夕方の、静かな風が吹き渡る屋上の展望デッキへと足を踏み出したのも、今日子だけ。空の下に歩き出して気がつくと、広々とした展望デッキにいるのは、今日子ただひとりなのだつた。

夕焼けの赤色に染まる空が、果てしなく広がつてゐるその空間に——昔見たのと同じ、飛行機がエンジン音をたてて離陸と着陸を繰り返す様子が続くその場所にいるのは、彼女だけだった。

「——子どものときの、^④あのときみたいだな」

あの秋の夕暮れ、黄昏時の情景のようだつた。

違うのは、あのときの今日子は子どもだつたこと。

あのときみたいに、いなり寿司を二人前持つて、おとなになつ

た今日子は、^⑥ふと苦笑する。

「寂しい、泣きたい気持ちなのも、同じかもね。涙をこらえているのも、おんなじだ」

今日子はとても悲しい。悲しくて、怖い。

成功の確率の低い手術を受ける予定があるからだ。

少し前、スマートウォッチが、今日子にはよくわからないメッセージを画面に表示した。これは何ですか、と携帯電話のお店に、教えてもらいに行つたら、「心臓がちょっとおかしかったよ、と時計が教えてくれているんです。早めに病院に行かれた方がいいですよ」と、教えてくれた。

半信半疑だつたし、何しろ今日子は機械ものには疎い。LINEのやりとりのついでに、明日香に、実はこんなことが、とメッセージを送つたら、速攻で電話がかかってきて、『お姉ちゃん、すぐに病院に行つて。^⑦頼むから』

という。

何でも、同じようにスマートウォッチに心臓の異常を感じしたというメッセージが表示されて、病院で診てもらつて助かつたひとが、日本はおろか、世界中にあるのだとか。

心臓、と聞くと、その病気で亡くなつた父のことを思いだし
て、どきりとした。けれど、

「まさかー」

今日子は笑い飛ばした。

自慢じやないけれど、元気と健康には自信があつた。自分に
限つて、心臓がどうとか、絶対にあり得ない。間違いだらうと
思った。

でも、明日香はどうしても病院に行けという。泣きそうな声で
懇願されると、お姉ちゃんとしては、⁽⁸⁾無下にできなかつた。

「わかった。明日行くよ」

ちようど、その次の日に休みを取つていた。

そして、近所の評判のいい循環器科の病院に（そういうこと
にはタクシードライバーは詳しいものだ。何しろ、病院に行くお
客様をたくさん乗せているのだから）出かけ、内診や様々な検査
の末、精密な検査を受けるようにいわれた。そして、数日をかけ
ての検査の後、心臓に思わぬ異常が見つかつた。

先生は、優しいまなざしで⁽⁹⁾氣遣うようにいつた。治らない病
気ではない。手術をすれば治る確率が高い。けれど、実のところ、難しい手術なので、必ず成功するとはいえません。

先生のまなざしは、まるで、もう、今日子がこれから転げ落ちて
行く、死への道のりが見えているようで、かわいそうに、とい
う、そんな想いが透けて見えるものだつた。

母や祖母が病んで身罷つたとき、もう助からないと告げた医師
たちのそのまなざしと同じで、すでに違う世界に引っこすと知れ
たひとを見るような、遠いまなざしだつた。

（じやあ、わたしも死ぬんだな）

と、今日子は思つた。

（難しい手術なんだらうなあ）

そのとき、自分が笑みを浮かべていたのを覚えている。ありが
とうございます、と、いつものように深く頭を下げ、ふらふらと
診察室を出て、病院を出た。

手術の日取りその他、いろんなことを決めなくてはいけないよ
うだつたけれど、とても受け止めきれず、また来ます、と頭を下
げて、六月の空の下に足を運んだのだつた。

次の日は、勤務の日だつたけれど、⁽¹⁰⁾不安定で物思いにふけり
がちな自分がお客様を乗せて車を運転するなんて、とてもできな
いと思つた。

電話で会社に相談したところ、絶句されたあと、しばらく休む

ようにはいわれたのだった。有給休暇きゅうかを使って、ゆっくり休みなさい、と。

そして今日、妹が会いに来るのは、つまりはその診断の話と、手術についてのことを聞きに来てくれるのだった。明日香がいうには、手術をするとしたら、保証人も必要なのだそうで、それは彼女に頼むしかなかつた。

黄昏時の空の下で、ひとり風に吹かれ、飛び立ち舞まい降りる飛行機たちのエンジン音を聞きながら、今日子は少しだけ笑い、深いため息をつく。

「ああ、泣きたいなあ。泣けるなら、よかつたなあ」
こんなとき、ひとは泣いていいのだろうと思う。どんなに泣いても許されることだらうと、思うのだ。

(村山早紀むらやまさき「風の港 再会の空」より。)

問一——線部①「まるで魔法でかき消したように」とあります

が、こう感じた主人公の心情の説明として最も適当なもの

を、次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 飛行機を一人で見たかったので、屋上に誰もいないこと

が、親切な魔法使いの好意のように思えてうれしかつた。

イ 秋風の肌寒さのせいで人々が空港の屋上に来ないことに

気づき、人の力の及ばない自然の偉大さに感動している。

ウ いつもと違つて人の姿の見えない空港の屋上の光景がとて

も意外だつたので、不思議に思い、とまどいを感じている。

エ 誰もいはないはずのない空港の屋上に人がいないのを見

て、何かしら恐おそろしい存在を感じて逃げようと思つた。

オ 人がたくさんいる空港の屋上を見慣れているので、今まで見たことのない光景に、思わず胸をときめかせている。

問二 次のア～オのうちで、――線部「すぎる」が、――線部②「過ぎる」と同じ使い方であるものを選び、記号で答えなさい。

- ア どうやら今日は風が寒すぎるようだ。
イ 気づかず郵便局の前を通りすぎる。
ウ 私はお金を使いすぎることがあります。
エ 時がすぎるのを忘れて語り合いました。
オ この家の家賃はあまりにも安すぎる。

問三――線部③「こらえていた」とありますが、その理由の説明として最も適当なものを、次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 他人の見ているところで泣けば、自分が今生きている状況につらさを感じていることが公になってしまい、はずかしいから。
イ 母の努力や祖母の優しさにこたえられない自分のふがいなさに泣きたい気分だが、それがばれると家族関係が崩れるから。
ウ 母や祖母の愛情を感じながらも、多くの家庭とは違う環境に寂しさを感じていることに対し、くやしさを感じているから。
エ 母や祖母ががんばって自分や妹を育ててるので、自分もしっかりして家族のために早く仕事がしたいと思つているから。
オ 母や祖母、妹や亡き父などへの感謝や愛情の気持ちがあるので、涙を見せてることで家族に心配をかけたくないから。

問四　——線部④「あのとき」がいつであったのかを具体的に記

している部分を、本文中から三十字以内で書きなさい。

問五　——線部⑤「違うのは、あのときの今日子は子どもだった

こと」とありますが、主人公とその家族に関する以外に、「あのとき」とこの場面の状況で明らかに違ひがあります。「あのとき」「今日」という語を使ってその違いを説明しなさい。

問六　——線部⑥「ふと苦笑する」とありますが、このときの主人公の心情の説明として最も適当なものを、次のア～オから

選び、記号で答えなさい。

ア 空港の風景を見て子ども時代を思い出し、なつかしく思いつつも、自分がすっかり年老いたことに複雑な思いをいだいている。

イ いつも本音を隠して生きてきた自分の不正直さを恥じながらも、別の生き方ができない自分に複雑な思いをいだいている。

ウ 長年の病気が悪化するなか、不安で押しつぶされそうなのに、それさえも隠してしまう自分に複雑な思いをいだいている。

エ しつかりしないといけないと努力し、不安がある時でも、気丈に振る舞おうとしてしまう自分に複雑な思いをいだいている。

オ 誰にも心配をかけたくないのに、急に重病だとわかつて、不安な気持ちを隠せなくなつた自分に複雑な思いをいだいている。

問七 線部⑦「頼むから」とありますが、この言葉から、妹

のどのような気持ちがわかりますか。「姉の」から始まる形で、十五字程度で説明しなさい。

問八 線部⑧「無下にできなかつた」とありますが、その意味

に最も近い表現を、次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 安心させてやりたいと思った。

イ 心配にならぬわけがなかつた。

ウ とてもうれしい気持ちだつた。

エ 聞き流すわけにいかなかつた。

オ 感謝せずにはいられなかつた。

問九 線部⑨「気遣うようにいった」とありますが、主人公

は医師がどのような気持ちと意図をもつてこうした話し方をして

いると感じていますか。その説明として最も適当なもの

を、次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 医師は主人公の病気が重いことを知つて衝撃を受け

いるが、彼女を動搖させないために、必死に感情をおさえ

ている。

イ 医師はこの病気で死ぬ可能性がある主人公を気の毒に思
いながら、こうした患者かんじやに対する通常どおりの話しかたをして

いる。

ウ 医師は主人公が落胆らくたんしていることにあきれ、とりあえず
落ち着いて話を聞かせるために、優しそうな態度で話しか
けている。

エ 医師は万一手術に失敗しても責任を問われないように、
わざとこの病気が重いことや手術の危険性を強調して話し
ている。

オ 医師は主人公が、重い病気であるという現実を受け入
れ、最後まで希望を失わず、前向きに治療ちりょうを受けられる
ようにしたいと思つてている。

問十——線部⑩「不安定で物思いに…とてもできないと思つた

とあります。が、この表現から、主人公のどのような考え方があ

わかりますか。これについて説明した次の文の【】に

入ることばを、それぞれ漢字二字で自分で考えて答えなさい。

仕事に対する【A】感が強く、客の【B】を大切

にする考え方。

三——線部の四字熟語の誤った漢字を探し、正しい漢字一字を答えなさい。

《例》ことばが無くても意心伝心で伝わる。 答え「以」

(1) 温故知心の教えに従い、本を読む。

(2) 誠眞誠意努力する所存です。

(3) 日新月歩の成長をみせる。

(4) 皆が異句同音に賛成した。

(5) この話は起承転決がよくまとまっている。

四

——線部の敬語は、一般的なルールからみて誤りがあります。
《》内に指示された字数で、すべてひらがなで、正しい形に改めなさい。

(1) 母がすぐにあなたのお宅にいらっしゃいます。《五字》

(2) それでは、こちらがすぐに御社をおたずねになります。《九字》

(3) お客様、明日当店にご来店いたしますか。《六字》

(4) 私はお招きにあずかり、ディナーをめしあがりました。《七字》

(5) 朝顔に水をあげましょう。《六字》

五 次の——線部の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して書

きなさい。

(1) まさに鬼おにに金棒きんぼうだ。

(2) どういう訳すいたいで遅刻おそしたのか。

(3) 養蚕業ようさんぎょうが衰退すいたいする。

(4) 選挙後に組閣くみかくする。

(5) 以前より彼かれの盟友めいゆうであつた。

(6) 銀行の入り口入りぐちをケイビケイビする。

(7) 事業のリヨウイキりょういきを拡大かくだいする。

(8) 文化イサンぶんかいさんを守る活動かつどうをする。

(9) 口ウホウくわうを聞いて安心あんしんする。

(10) それはまさにゲキヤクげきやくだ。

